

人と自然のほど良い関係

① 11月 5日 (水)

② 11月12日 (水)

③ 11月19日 (水)

全3回 各回 18:30-20:00



① 岩本 陽児
現代人間学部 教授



② 小野 奈々
現代人間学部 准教授



③ 堂前 雅史
現代人間学部 教授

会場 | 和光大学ポプリホール鶴川 3F 多目的室 (小田急線鶴川駅 北口から徒歩3分)

定員 | 30名 (先着順)

受講料 | 2,000円(全3回) ※ 高校生・大学生は無料

★ お申し込み方法は裏面をご覧ください。

和光大学ポプリホール鶴川

鶴川街道



コンビニ 銀行

タクシー
乗り場

スタークス

小田急線

改札 (北口)

鶴川駅

改札 (南口)

至町田

至新宿

- ・ 町田市共催事業
- ・ 町田市文化施設指定管理共同事業体
代表団体 (一財)町田市文化・国際交流財団共催事業
- ・ 川崎市教育委員会連携事業

産業革命は、伝統社会が培ってきた自然密着型の暮らしを大きく書き換えました。1970年代以降、環境問題は地球規模の政治課題となり、2015年に国連総会が採択したSDGsに至るさまざまな合意が国際社会で作られてきました。その一方、フットパス(里道)歩きや里山保全活動を通じて自然と触れ合う楽しさも、ライフスタイルとして定着しています。人と自然のほど良い関係とはどういうものか、3つの切り口から一緒に考えてみませんか？

① 11月5日(水)

イギリス人はいつから自然大好きになったのか

赤い郵便ポストや「車は左」など、英国の近代日本への影響は大きい。しかし英国の「エキリプス」をご存じだろうか？色鮮やかなオス鴨は、繁殖期が終わると換羽して地味な装いになる。その比喻なのだが、英国は、最初の産業国家として世界に誇った国力が凋落傾向となった20世紀初頭以来、新たな国家像を模索するなかで、自然と人間の新たな関係を取り結んできた。ガーデニング大国の、知られざる環境市民運動と生活文化をご紹介します。

講師：岩本 陽児

現代人間学部教授。主な担当科目は「生涯学習論」、「野菜づくり入門」、「里山保全の理論・実際」。

② 11月12日(水)

開発か保全か、それとも？ ～ブラジルの現場から考える～

ブラジルの森林伐採や鉱山開発については、「開発か保全か」という対立のかたちで語られることが多い。けれども、実際にその土地で暮らしている人びとの立場から見ると、事情はもっと複雑で切実である。この講座では、「自然と人間」「開発と保全」といった二つに分けて考えるのではなく、人びとの生活に根ざした視点＝“生活環境主義”の立場から、ブラジルの現場で何が起きているのかを一緒に考える。

講師：小野 奈々

現代人間学部准教授。主な担当科目は「合意形成と対話のデザイン」、「現代社会とNGO・NPO」、「環境社会学」。

③ 11月19日(水)

足もとの自然との付き合い方 ～生きもの目線で都市を考える～

都市といえば「自然」とは真逆のものという印象を持たれがちだが、むしろ都市は生物多様性の重要な拠点と考えられるようになってきた。鶴見川流域に位置する和光大学付近の自然保護活動を題材として、「環世界」や「流域」という語を手がかりに、野生生物との共生や気候変動対策など、新たな都市環境のあり方について考えていきたい。

講師：堂前 雅史

現代人間学部教授。主な担当科目は「生物の多様性」、「動物と人間の関係史」、「先端科学と私たちの社会」。

お申し込み方法

Peatix で受付いたします！お電話による受付も可能です。

Peatixの和光大学イベントページにアクセスしてお申し込みください。

※ インターネット(Peatix)でお申し込みをされた方のお支払いは「クレジットカード払い」または「コンビニ/ATM払い」となります。

※ お電話でお申し込みをされた方は、当日会場にて受講料をお支払いください。お支払方法は現金のみとさせていただきます。

お釣りのないようお願いします。

※ 高校生・大学生の方は、メールの件名を「2025連続市民講座 学生申し込み」とし、本文に① 氏名、② 学校名、③ 電話番号を明記の上、和光大学 企画係大学開放フォーラムのメールアドレスにお送りください。

講座に関するお問い合わせ
お申し込み(電話/学生)

和光大学 企画係 大学開放フォーラム

☎ 044-988-1433
(月～金 / 9:00～16:30)

✉ open@wako.co.jp



お申し込みは
こちらから！

お申し込み受付期間: 10月15日(水)～10月31日(金)